

NPO 法人岡崎がくどうの会

2023年度 学童保育指導員研修 レポート

【クラブ】（ 風の子クラブ ） 【名前】（ 川原郁美 ）

○研修名 （ 怒りの理解と対処 ）

この研修を受講したいと思ったのは、日々保育をする中で「そんなことで怒らなくてもいいじゃない」とか「今のなにに怒れたの？どこがポイントだったの？あなたの沸点はどこ？」と子どもに対して思うことが増えてきたのと、自分自身が短気で怒りっぽいので、怒れる子ども達とのかわり方と自分自身の怒りのコントロール方法を学べたらいいなと考えたからです。

研修を受けてみて、もっと心理カウンセリング的な視点での講義がメインになるのかと想像していましたが、現代の若者にある社会の問題や環境の問題にも触れた、怒りという感情とそれともなう行動の背景にあるものから考えるもので、感情っておもしろいな、感情が表に出せることは幸せなことだなと感じました。怒りからくる問題と感じられる行動は、あくまで怒りという「二次的感情」として表出されているだけであって、それが全てではなく、その行動だけに対処してはいけません。怒りの感情の前に抱いた感情がなんなのか、悲しかったのか、悔しかったのか、寂しかったのか、恥ずかしかったのか、、、。そこを子どもと一緒に考えて、整理して、自分で自覚して、受け入れるようになれることが子どもにとって、情緒の面で成長するために必要なことだと気づきました。また、子ども自身が自分の怒りポイントと怒りの前の気持ちに気づいて受け入れるとともに、かわる大人が子どもの怒りの感情を受け止められる心を持つておくことが必要だとも感じました。受け入れてくれる、考えてくれる誰かがいることが、現代を生きる子どもにとっても、大人にとっても必要なことだと思います。

学びや気づきがあったのと同時に、反省したこともありました。トラウマの話聞いた時、私のかかわり方が気づかないうちに子どものトラウマとなっていたり、嫌だったりした状況と同じものを作り出して、傷つけてしまっていたのではないかということです。それによって、より子どもの怒りの感情を増幅させてしまっていたかもしれないと思いました。具体的にこの場面というものはありませんが、気づかないうちにトラウマを再体験させてしまっているかもしれないと考えるきっかけになる講義でした。自分の子どもとのかかわり方にもう少し繊細さを身につけていきたいと思います。

子ども達にとって風の子が、ポジティブな感情もネガティブな感情も素直に出せる場所になれるように、雰囲気作りや関係性作りをしていきながら、子ども達が自分自身を大切にできる心を持つてるように保育していきたいと思った研修でした。